

決算説明資料

2020年3月期 第2四半期

代表取締役社長 長谷川 聡

2019年11月14日

© 2019 Ubiquitous AI Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous AI Corporation makes no warranties, express or implied, in this summary.



Index

- 第2四半期業績の概要
- 通期業績予想
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第2四半期 業績の概要

第2四半期（累計期間）の概況

業 績

- 連結売上高 : 1,084百万円
(計画比 3.8%増 / 前年同期比 3.9%減)
- 連結営業利益 : △40百万円
(計画比 90百万円改善 / 前年同期比 54百万円減)

セグメント別概況

ソフトウェアプロダクト事業

高速起動製品のロイヤルティ売上が堅調により売上、利益とも計画を大きく上回る

ソフトウェアディストリビューション事業

売上、利益とも計画をやや下回るものの、既存顧客からのロイヤルティを中心に概ね堅調

ソフトウェアサービス事業

受託開発案件の検収期ズレにより売上は計画を下回るものの、コンテンツライセンスが堅調により利益は計画を上回る

連結損益計算書

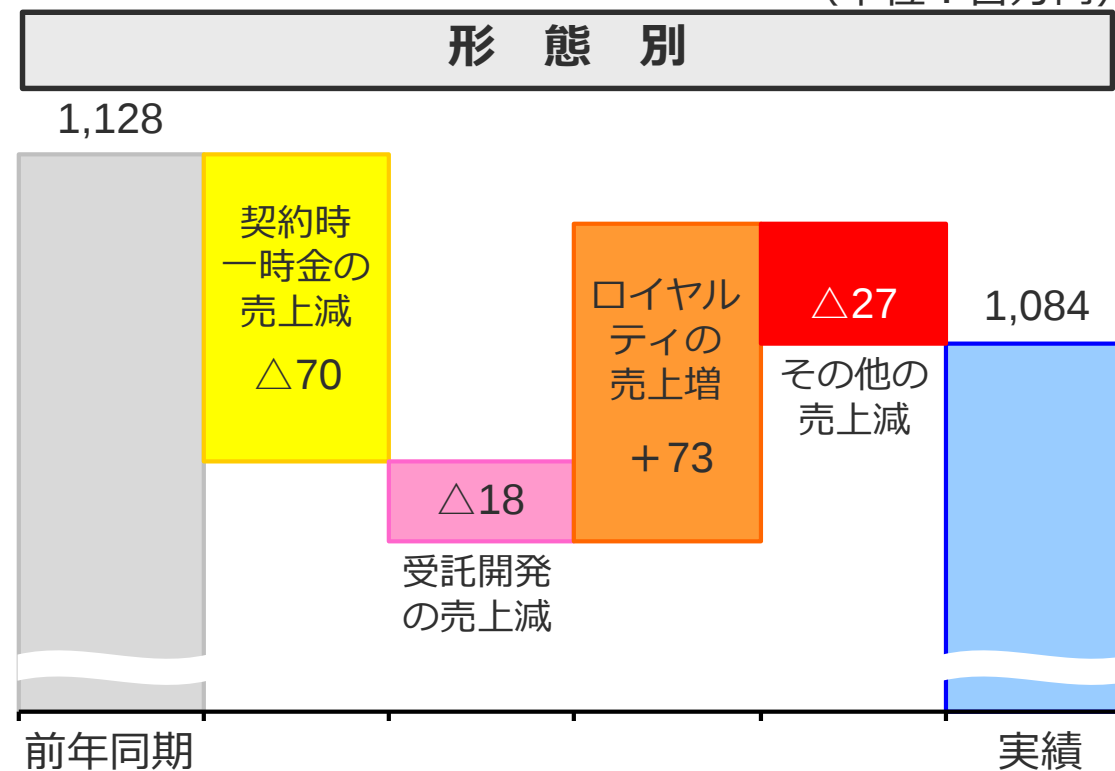
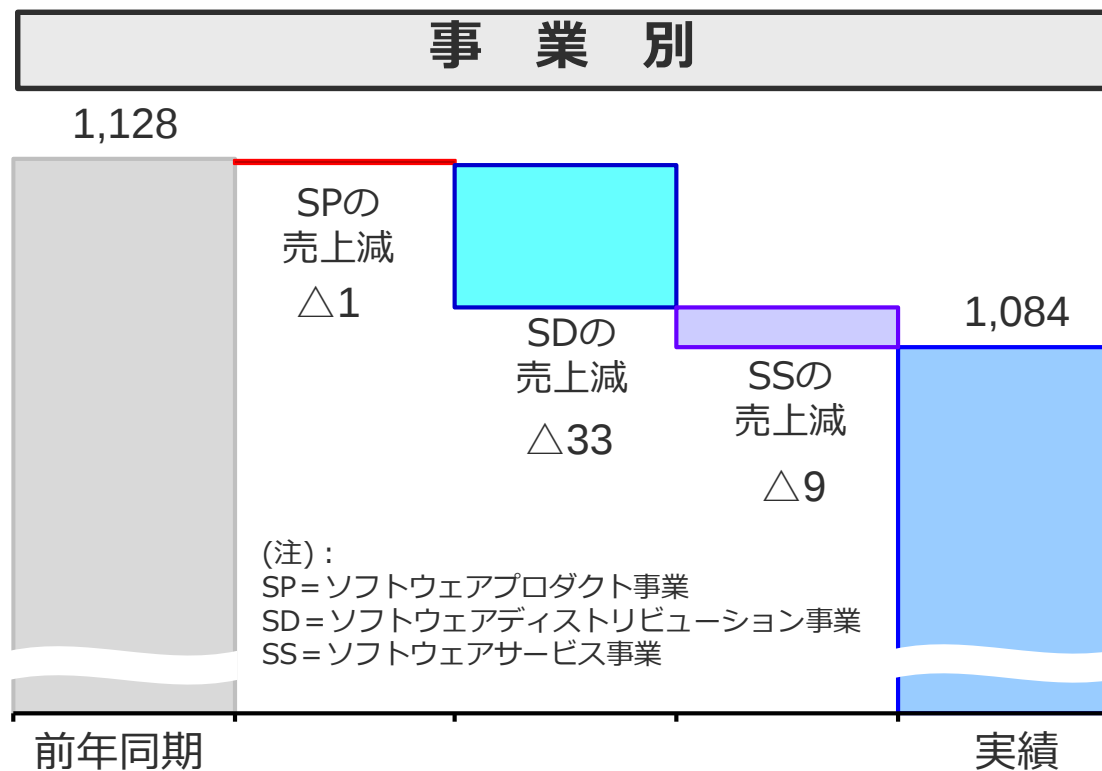
(単位：百万円)

	前年同期	2020/3期 (第2四半期)	増減
売上高	1,128	1,084	△43
売上原価	565	602	36
売上総利益	562	481	△80
販管費	548	522	△26
営業利益	13	△40	△54
営業外損益	3	2	△0
経常利益	17	△37	△54
特別損益	△0	-	0
法人税等	50	16	△33
四半期純利益	△33	△54	△20

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期比増減：売上高

(単位：百万円)

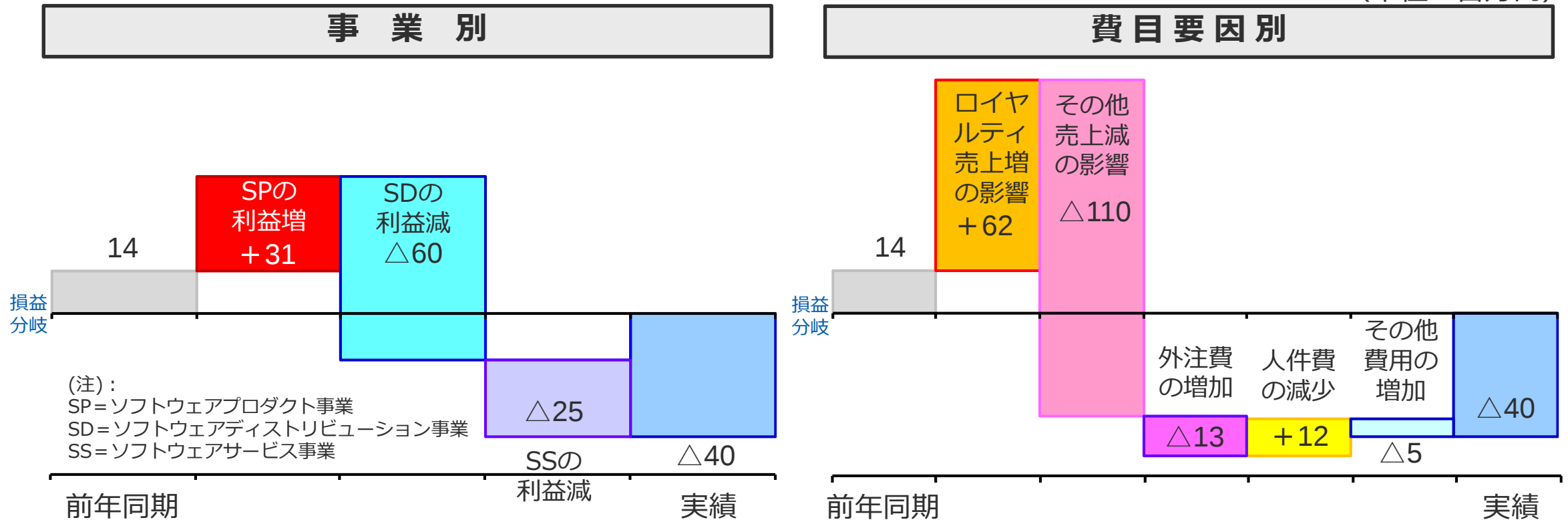


■ 前年同期比 売上高：微減

- SP事業：契約時一時金売上、受託開発売上が減少、ロイヤルティ売上が増加
- SD事業：ロイヤルティ売上増加、契約時一時金が減少
- SS事業：検収期ズレ等により受託開発売上が減少

前年同期比増減：営業利益

(単位：百万円)



■ 前年同期比 営業利益：微減

- － SP事業：ロイヤルティ売上増加により採算性が改善、営業利益が増加
- － SD事業：コミッション（手数料）売上が減少、及び粗利率が低下、営業利益が減少
- － SS事業：期ズレにより受託開発売上が減少、営業利益が減少

連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

	2019/3月末	2019/9月末	増減
現金・預金	1,159	1,020	△139
受取手形・売掛金	675	432	△242
有価証券	400	700	300
棚卸資産	22	32	9
前払費用	69	60	△8
その他流動資産	57	45	△11
流動資産	2,384	2,291	△92
のれん	526	421	△105
その他固定資産	304	301	△2
固定資産	831	723	△107
資産合計	3,215	3,015	△200

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

	2019/3月末	2019/9月末	増減
買掛金	153	100	△53
未払金	59	8	△50
前受金	110	87	△23
その他流動負債	75	59	△16
流動負債	399	255	△143
固定負債	80	81	0
資本金	1,482	1,483	0
資本剰余金	1,452	1,453	0
利益剰余金	△236	△290	△54
その他純資産	37	32	△4
純資産	2,735	2,678	△56
負債・純資産合計	3,215	3,015	△200

通期業績予想

通期業績予想（連結）の概要

（単位：百万円）

	上期			下期			通期		
	期初予想 (A)	実績 (B)	増減額 (B-A)	期初予想 (A)	今回修正 (B)	増減額 (B-A)	期初予想 (A)	今回修正 (B)	増減額 (B-A)
売上高	1,045	1,084	39	1,374	1,334	△39	2,419	2,419	-
営業利益	△131	△40	90	141	50	△90	9	9	-
経常利益	△131	△37	93	141	47	△93	10	10	-
純利益	△162	△54	107	170	62	△107	8	8	-

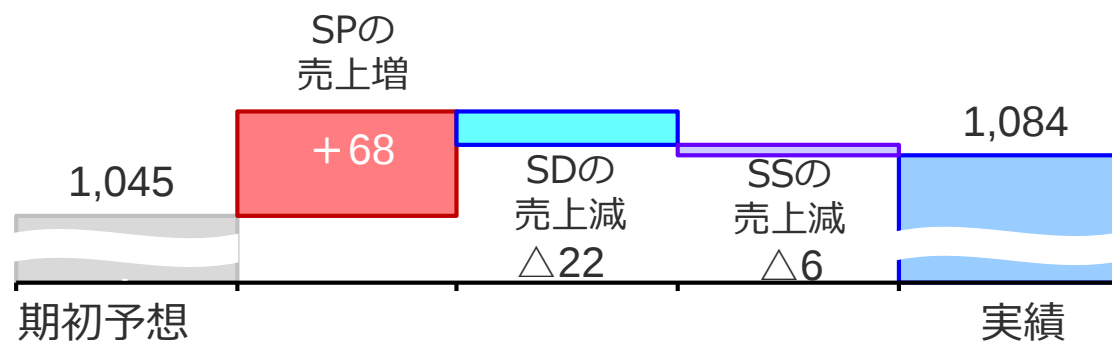
- 期初に公表した2020年3月期 上期（第2四半期累計期間）業績予想を修正
- 通期の売上高、営業利益、経常利益及び純利益（親会社株主に帰属する当期純利益）は前回予想と同程度となる見込み

期初予想比増減：売上高

(単位：百万円)

上 期

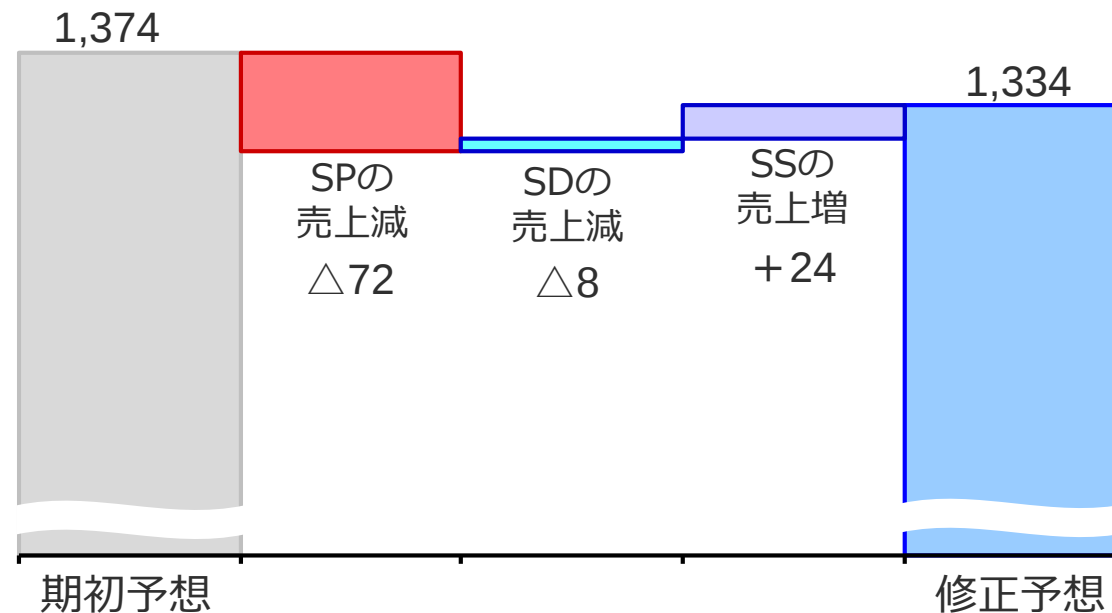
(注) :
SP=ソフトウェアプロダクト事業
SD=ソフトウェアディストリビューション事業
SS=ソフトウェアサービス事業



■ 期初予想比 上期売上高：増加

- SP事業：主にロイヤルティ売上が増加
- SD事業：主に契約時一時金売上が減少
- SS事業：ロイヤルティ売上が増加するも、受託開発案件が下期に期ズレ

下 期

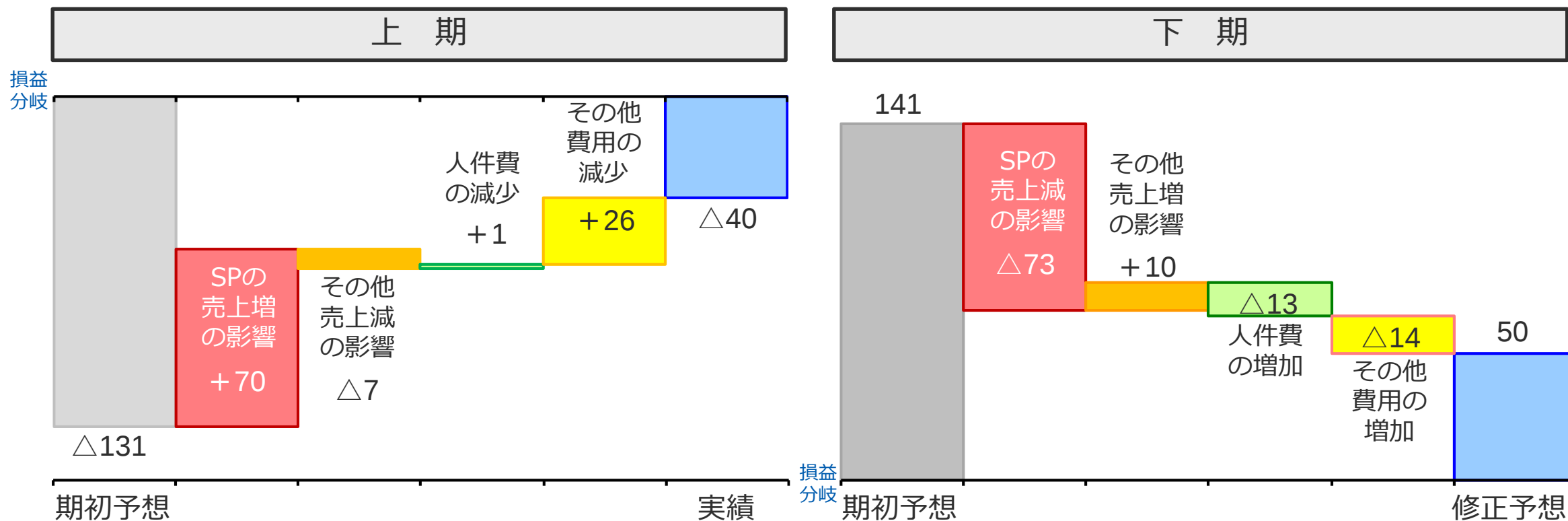


■ 期初予想比 下期売上高：減少見込

- SP事業：C&S関連の売上が減少
- SS事業：主に上期から期ズレした受託案件により増加

期初予想比増減：営業利益

(単位：百万円)



■ 期初予想比 上期営業利益：増加

- ロイヤルティを中心としたSPの売上高が増加
- 外注費他の費用を抑制

■ 期初予想比 下期営業利益：減少見込

- SP（C&S関連）の売上高が減少
- 研究開発、事業基盤強化のための人員採用による人件費が増加
- 外注費、採用関連費を中心に費用が増加

通期業績予想（連結）に対する進捗

（単位：百万円）

	通期 業績予想	第2四半期 実績	進捗率（%）
売上高	2,419	1,084	44.8
営業利益	10	△40	—
経常利益	10	△37	—
純利益	8	△54	—

セグメント及び製品分野別 動向と取り組み

対前期比増減:セグメント及び製品分野別売上高

(単位:百万円)

セグメント	分野	前年同期 (連結)	2020/3期 第2四半期 (連結)	増減率
ソフトウェアプロダクト事業	コネクティビティ&セキュリティ	120	72	△39.9
	データベース	47	33	△29.0
	高速起動	129	189	46.8
	小計	296	295	△0.4
ソフトウェアディストリビューション事業		650	617	△5.1
ソフトウェアサービス事業		180	171	△5.2
合計		1,128	1,084	△3.9

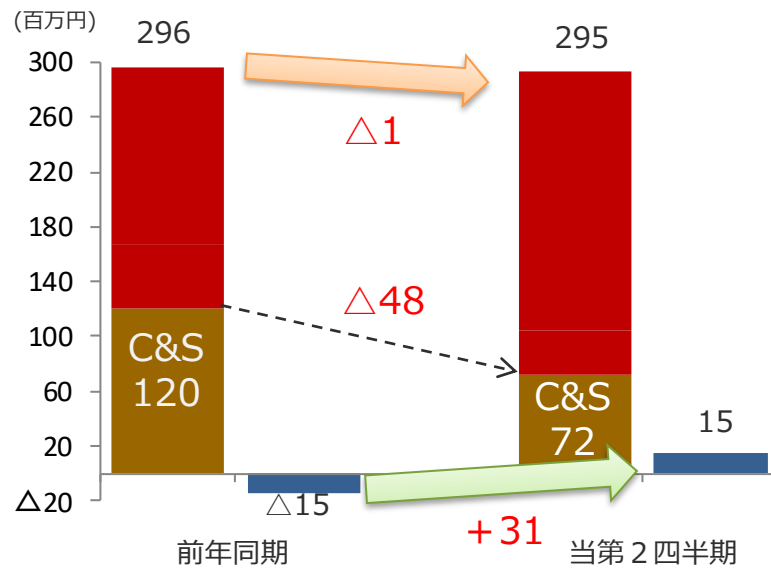
対前期比増減:セグメント別売上及び利益

(単位:百万円)

		前年同期 (連結)	2020/3期 第2四半期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	296	295	△1
	セグメント利益	△15	15	31
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	650	617	△33
	セグメント利益	※1 34	※1 △25	△60
ソフトウェアサービス 事業	売上高	180	171	△9
	セグメント利益	※2 △5	※2 △30	△25

※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 53百万円を含めております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額51百万円を含めております。

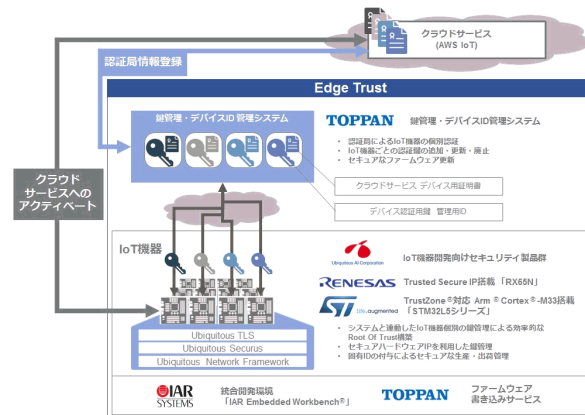


■ 当四半期概況

- デジタルAV関連の既存顧客との間でロイヤルティ売上を計上
- スマートエネルギー関連の案件で「Ubiquitous Network Framework」に関する受託開発売上等を計上
- 「Ubiquitous Securus」に関する受託開発売上等を計上
- 2019年7月にTLS1.3に対応したIoTデバイス向け軽量TLS/SSLプロトコル「Ubiquitous TLS」の販売開始を発表

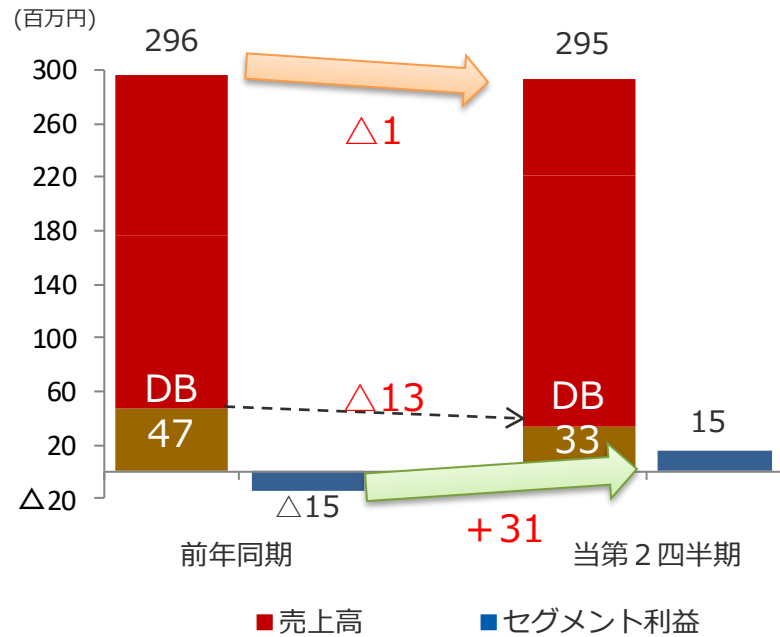
■ 取組方向性

- 新製品「Edge Trust」によるIoTセキュリティ分野での事業展開強化：半導体/半導体部品メーカー、販社との連携強化、ソリューション提供によるサービスも含めた拡販展開
- ディストリビューション事業取扱い製品の一部（セキュリティ関連）、パートナーとの開発連携によるネットワーク、セキュリティを中心とした製品ラインナップの強化・充実
- 車載、産業、その他IoT市場に向けたセキュリティ関連製品の拡販活動



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、コネクティビティ & セキュリティ関連のみの売上です。

ソフトウェアプロダクト事業 データベース関連

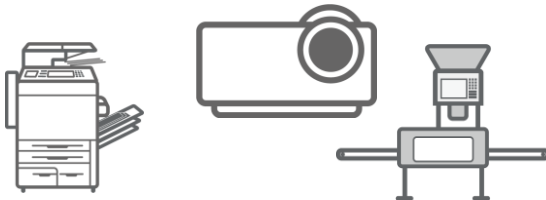


■ 当四半期概況

- 産業機器等の既存顧客のロイヤルティ売上等を計上

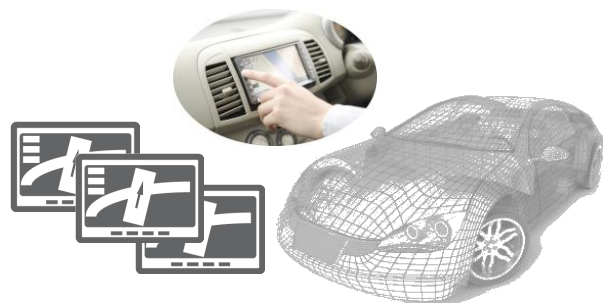
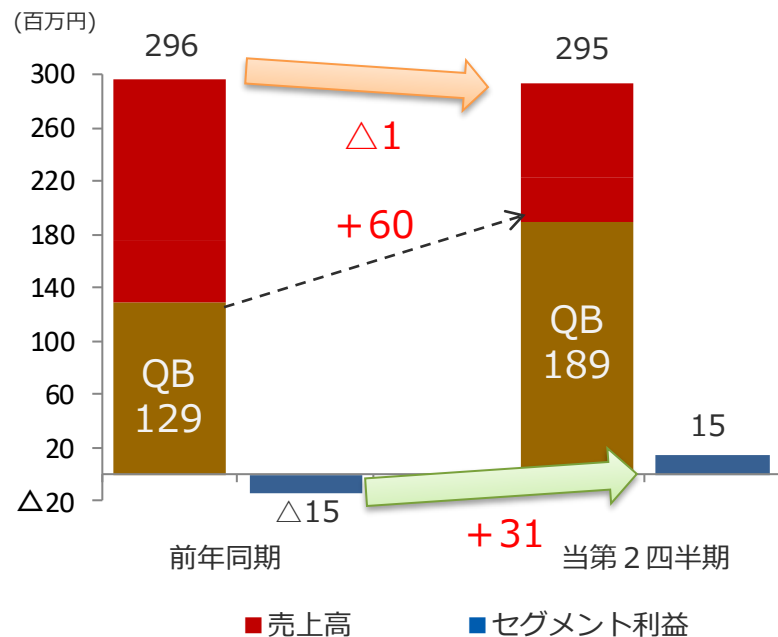
■ 取組方向性

- 既存顧客のサポートによる安定収益の確保
- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、データベース関連のみの売上です。

ソフトウェアプロダクト事業 高速起動関連



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、高速起動関連のみの売上です。

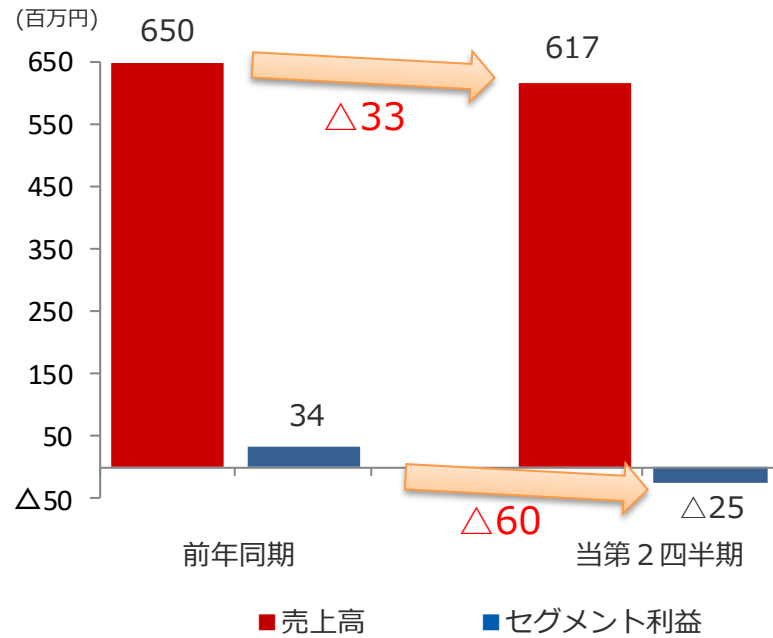
■ 当四半期概況

- 既存の車載機器関連、海外民生機器の顧客からのロイヤルティ売上が堅調に推移
- 引き続き、カーナビ等車載向け機器を中心に複数社との間で大・中規模案件の開発継続、及び商品化に向けた新規案件を受注
- 海外顧客からの引き合いが好調

■ 取組方向性

- 車載情報端末以外の車載機器向けの拡販を強化
- Tuxera社との協業も含めた海外顧客の拡販を強化
- 仮想化技術、セキュアブート、電源断対応ファイルシステムなどの機能組み合わせなど付加価値の高いソリューション化、クロスセルを推進
- 次世代技術開発の継続

ソフトウェアディストリビューション事業



■ 当四半期概況

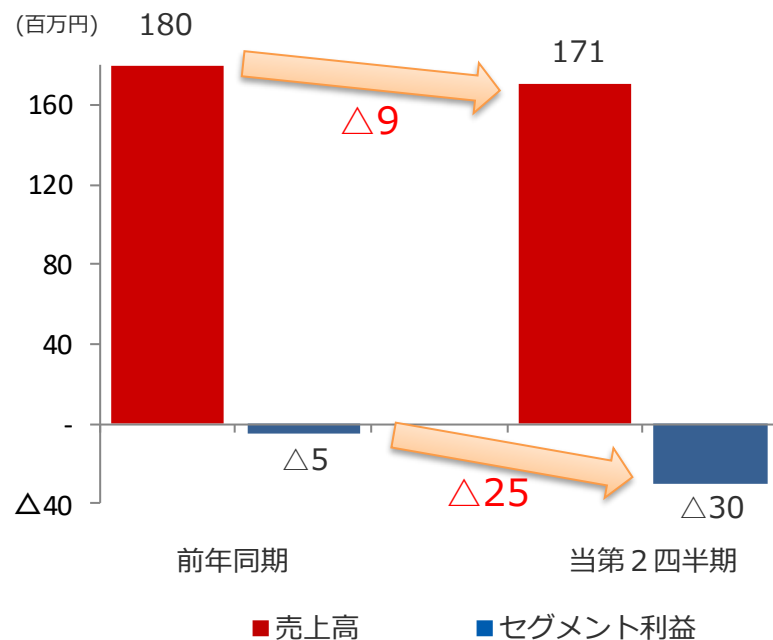
- ワイヤレス製品：デジタルイメージング等の既存顧客から「Blue SDK *1」のロイヤルティ売上等を計上
- 品質向上支援ツール製品：車載機器、医療機器等の既存顧客から「CodeSonar *2」やECU関連開発ツールなどリピート及び新規顧客から年間ライセンス及びサポート売上を計上
- BIOS製品：ノートブックPC、OA/FA機器の既存顧客から「Insyde H2O *3」のロイヤルティ売上、受託開発売上等を計上
- AI関連製品：「CoDriver *4」の引き合いが好調で、新規顧客との間での契約時一時金売上を獲得し、多数の顧客に対して営業活動を行う
その他、多数の取扱い製品より、新規、既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上



- *1 BlueSDK: Bluetoothプロトコルスタック
- *2 CodeSonar: ソフトウェアの動作不具合、脆弱性をソースコードのコンパイル時に静的解析し、バグを検出するツール
- *3 Insyde H2O: 「EFI/UEFI」仕様を実装したC言語ベースBIOS
- *4 CoDriver: ドライバーモニタリングシステム

■ 取組方向性

- 米国のBeyond Security社とIoT機器の脆弱性・セキュリティ検証のための新ツール「beSTORM X」を共同開発・販売開始、新たな取り組みとしてIoTセキュリティ検証サービスを推進
- 年間利用ライセンス契約により収益安定貢献の高いソフトウェア品質向上支援等のツール製品を重点的に販売促進
- 引き続き訴求力ある新規取扱い製品を拡充し、売上・利益の拡大を図る



■ 当四半期概況

- 既存顧客との各種受託開発売上を計上
- 車載機器向けの「YOMIデータ」コンテンツに関するライセンス使用料売上等を計上

■ 取組方向性

- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的な確保と、協業提案による新たな取り組み
- 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現



YOMIデータの活用例：アーティスト名ソート

アーティスト表記	YOMI
さだまさし	サタマサシ
サザンオールスターズ	サザンオールスターズ
L'Arc-en-Ciel	ラルクアンシエル
松任谷由実	マツトウユユミ

アーティスト表記でソート		YOMIでソート	
ソート順位	アーティスト表記	ソート順位	YOMI
1	L'Arc-en-Ciel	1	サザンオールスターズ
2	サザンオールスターズ	2	さだまさし
3	さだまさし	3	松任谷由実
4	松任谷由実	4	L'Arc-en-Ciel

トピックス

「Ekkono (エコノ) SDK」の取扱いを開始

■ スウェーデン Ekkono Solutions社と国内総代理店契約を締結、2019年8月21日から販売開始

「Ekkono」は、スウェーデン語で “cognition（認知力）”を表します。

システムのエッジ側にあるIoT端末のスマート化を目指して開発されたAIライブラリです。

■ 製品の特長

- システムの正常な動作状態を事前学習によってモデル化し、異常ケースを階層的に学習することで、データ量を劇的に削減
- 機器の設置後も、それぞれの動作環境の変化を学習してAIモデルデータを進化
- 組込みに特化し、ワンチップマイコンで動作可能な軽量さを持つため、非力な組込み環境でも、クラウドサーバーにアップロードしきれない生データをリアルタイム且つ高頻度で収集・分析、きめ細かくタイムリーなデータ活用を実現

■ エッジAIの必要性

クラウドでのデータ処理、分析、活用は非常に便利な一方、つながる端末・デバイスが増えることで、公共回線の帯域やクラウドサーバーの負担増が不可避です。

また、リアルタイムでのアクションが求められるシステムも増えています。

エッジAIを使用し、データの蓄積、分析、機械学習とそれに基づく予測を行うことでこれらを解決できます。

「Edge Trust」の取組強化

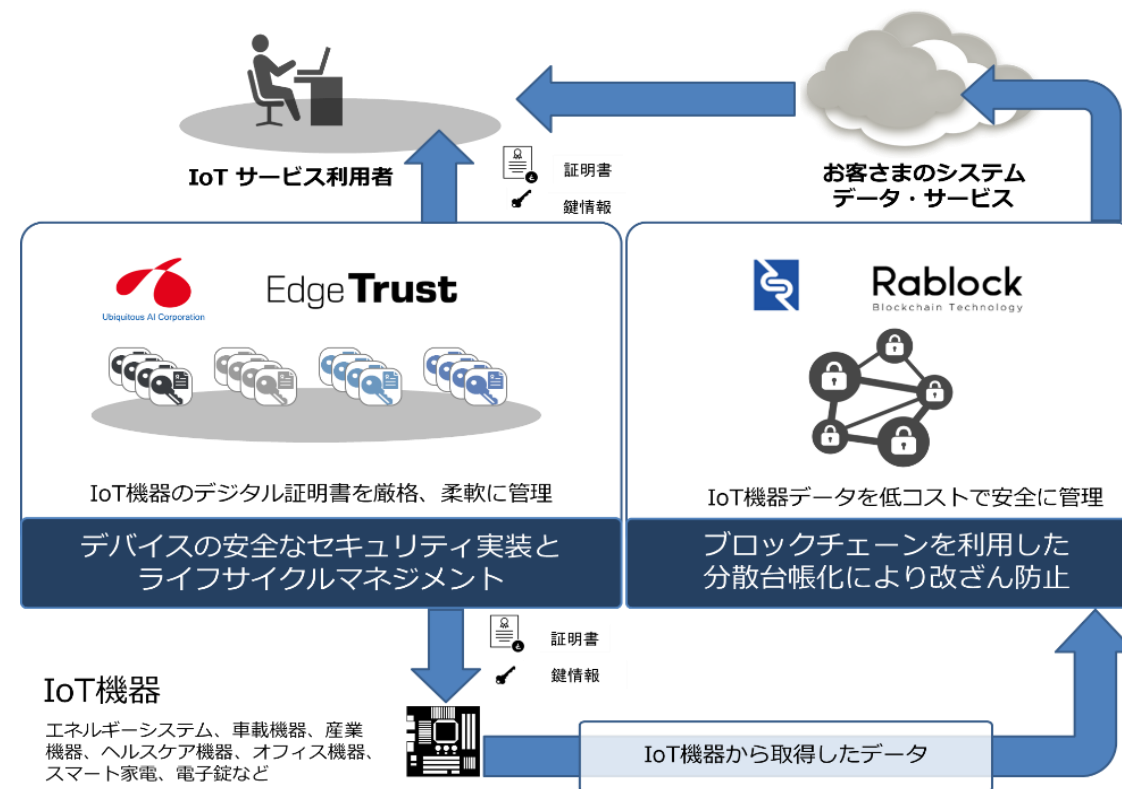
Edge**Trust**

■ ラブロック社とのブロックチェーンを活用した IoT 機器のデータ改ざん防止ソリューションの業務提携

- ラブロック社のビジネスブロックチェーンプラットフォーム「Rablock」を活用し、IoT機器が生成するデータの改ざん防止を実現するソリューションを「Edge Trust」のオプションサービスとして開発、提供
- 2020年3月中に、評価利用向けに提供を目指し開発予定

■ IoTライフサイクルマネジメント関連の特許出願

- Edge Trustで使用されている独自のシステムと機器のセキュアなオペレーションを可能にし、デバイスの持つセキュリティ機能を活用しながらIoT機器の公開鍵、秘密鍵、クライアント証明書管理やFOTA※を効率的に行うための技術を対象とした特許を凸版印刷と共同で申請済み
- IoTサービスをより効率的且つ安全に使えるだけでなく、様々なユースケースに応用できるソリューションとして、Edge Trustの独自技術のさらなる強化を凸版印刷と共同で進めていく予定



※ FOTA (Firmware Over-The-Air) :無線通信を使用して、遠隔からIoT機器のファームウェアの配付・更新を行う技術

OnBoardSecurity社との代理店契約解消

■ 代理店契約終了の理由

- 米国Qualcomm Technologies社によるOnBoard Security社の買収に伴い、同社の各製品の代理店契約が終了

■ 取扱い終了対象製品と今後の対応について

- TPM2.0用ソフトウェアスタック（TSS2.0）
 - 同種の自社製品を保有しており、当該製品での販売への切替を提案
- 耐量子暗号化技術（NTRU）
 - NIST（米国国立標準技術研究所）の量子コンピュータ対応公開鍵方式暗号技術の標準規格の動向や、製品の市場性を把握しながら、標準規格として選定される技術の自社製品化を目指して、調査・研究開発に取り組む予定
- V2Xセキュリティ通信（Aerolink）

Appendix

2020年3月期 第2四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第2四半期	7月9日	■ ユビキタスAIコーポレーション、AIを活用した空気質（エアクオリティ）モニタリングサービスを7月9日（火）に提供開始 ～PM2.5、NO2、SO2、オゾン、花粉などの空気質データを独自分散アルゴリズムで解析～
	7月10日	■ ユビキタスAIコーポレーション、車載ECU向けハイパーバイザー「COQOS Micro SDK™」の取り扱いを7月10日（水）に開始 ～機能安全規格の最高レベルASIL-Dに対応したハイパーバイザープラットフォーム～
	7月29日	■ ユビキタスAIコーポレーション、IoTデバイス向け軽量TLS/SSLプロトコル「Ubiquitous TLS」がTLS1.3に対応 ～国内初、自社開発によるIoTデバイス向け商用版スタックとして販売開始～
	8月21日	■ ユビキタスAIコーポレーション、Ekkono Solutions ABと国内総代理店契約を締結、組込み用AIライブラリを8月21日（水）に販売開始 ～個々の設置環境にあわせて自動学習し続けるスマートなエッジ端末を構築～
	9月19日	■ ユビキタスAIコーポレーション、Atrinet社と販売代理店契約を締結、ネットワークオーケストレーター「NetACE」を9月19日（木）に販売開始 ～マルチベンダー対応ミドルウェアでレガシーなネットワーク機器をSDN/NFVレディに～
第3四半期 （参考）	11月13日	■ ユビキタスAIコーポレーションとラブロック社、ブロックチェーンを活用したIoT機器のデータ改ざん防止ソリューションに関する業務提携で合意 ～2020年3月の提供を目途に開発予定～

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation